

NExT プログラム成果報告

プログラム期間(第3期): 2013年4月1日~2014年3月31日

「解析技術グループのあるべき姿についての提案」

株式会社LIXIL デジタル技術推進室 齊藤 俊幸

背景および問題点

株式会社LIXILは、業界 No.1 のグローバル企業を目指している。2011年の LIXIL 発足以来、この大きな目標達成のため、戦略に基づく組織変更、文化醸成、人材育成などの対策によって会社は大きく変化をしてきた。

CAE 業界においては、CAE ソフトウェアや PC の性能向上に対し、CAE に関わる技術者のスキルは十分でないことを問題視しており、知識が無くても答えは出せるという状態が、最終的には事故を起こす製品の設計に繋がるという危険性を指摘している。

このような現状から、LIXIL における CAE 部隊は、会社の変革や業界の動向に対応した変革をする必要があると考えた。

調査内容

世界で活躍し、最先端技術を生み出すには、どのような体制やしぐみが必要なのかについて調査を行った。また、それぞれの配属先の研究室にてテーマを作って体験学習し、実際に新しいしぐみを導入した際に、どれだけ大変なことなのか、どれだけ時間が必要なのかについても調査を行った。

課題解決に向けた提案

各研究室の活動から、最先端の技術を構築するにあたり、いくつかの大事な要素を抽出することが出来た。例としては、技術を研究開発するだけでなく、世の中でどんな困りごとがあり、どんな人を動かして、どう技術を活かせばよいかまで考えている点が挙げられる。

共通講義からは、技術者のあるべき姿など、最先端技術構築の裏に隠れたしぐみなどを学ぶことが出来た。また、経営や戦略についても学ぶ機会があり、今回のテーマに対しての答えを導くのに大いに役に立った。

最終アウトプットとしては、ビジョン・組織・人材開発という3つの視点から、今後のグループのあるべき姿に対してどのようなアクションを取るべきかについてまとめた。